北海道新聞　30年1月14日（朝刊）

# 対策万全 夢へ挑む

## センター試験 樽商大でも始まる

大学入学センター試験初日の13日、後志管内唯一の会場となる小樽市の小樽商大でも試験が始まった。受験生たちはそれぞれの志望校を目指し、第一関門へと挑んだ。

（元井麻里子）

解答用紙などが配られ、緊張感が高まる小樽商大の試験会場＝13日午前9時10分

同大での受験生は男性2,287人、女性2,251人の計4,538人で前年より52人少ない。受験生は午前8時ごろから次々と会場に到着。入り口付近で出迎えた高校教師や学習塾関係者らの激励を受けながら、やや緊張した表情で構内へと入っていった。

この日の朝は青空が広がり、心配されていた荒天の影響による交通機関の乱れはなかった。予定通り最初の教科の地理歴史・公民の試験が始まった。

北海道教育大岩見沢校を志望する、共和高3年の井田恵人さん(18)は「対策は万全。いつも通り、焦らず落ち着いて乗り切りたい」。小樽商大を目指す小樽桜陽高3年の中津潮音さん(18)は「やれることはやってきた。自分を信じて頑張る」と気を引き締めていた。

最終日の14日は理科、数学の2教科の試験を行う。

小樽ジャーナル　30年1月13日

## センター試験始まる！小樽商大に志願者538名 (2018/01/13)

ツイート

平成30(2018)年度大学入試センター試験が、1月13日(土)・14日(日)の日程で始まった。

全国695会場で、志願者数は、前年より6,704人多い58万2,671人。現役志願者率も、過去最高の44.6%を占めた。

後志管内唯一の試験会場である小樽商科大学では、昨日の大雪も収まり、心配していた交通機関の乱れもなく、志願者数は、前年よりも52人少ない538人(男287・女251)。そのため、試験室も昨年より1室少ない8室を設置し、8:30から入室可能となった。

受験生は、家族が運転する車で見送られるなど、8:00過ぎに次々と試験会場に到着。校門では、塾や高校の先生らが出迎え、「頑張れ！」とエールを贈った。

第1試験室(104講義室)では100名が入室。緊張が漂う中、係りから携帯電話等の受験上の注意事項や説明の後、地理歴史・公民の問題冊子と回答用紙が配布された。

13日(土)9:30から、地理歴史・公民の試験がスタートし、国語・外国語・英語(リスニング)が行われ、18:10に終了。

14日(日)9:30から、理科①・数学①・数学②・理科②が行われ、17:40に終了を予定している。

北海道新聞　30年1月15日（朝刊）

# 手応えあり 受験生ほっと

## 小樽もセンター試験終了

大学入試センター試験は最終日の14日、小樽商大でも数学と理科の試験が行われた。荒天による交通機関の乱れやトラブルもなく、2日間の日程を終えた受験生は、友人たちと手応えを語り合いながら、ひとまず安堵(あんど)の表情を浮かべた。

同大によると、交通機関の乱れで試験に遅れた受験生はいなかったという。午後2時40分に数学の試験が終わると、受験生が会場から退室。ほっとした表情を浮かべ、迎えに来た保護者の車やバスに乗って家路へ急いだ。

数学の試験を終えて、会場を後にする受験生たち

北大経済学部が第1志望の小樽潮陵高3年の小泉駿介さん(18)は「問題の傾向が全体的に変わった。数学が難しく、2次試験に向けて切り替えたい」と話した。

同じく北大経済学部を志望する潮陵高3年の中西貴大さん(18)は「英語の筆記は手応えがあるが、リスニングが難しかった。2次試験までまだ1カ月以上あり、苦手な数学や国語の記述に力を入れたい」と話していた。

（西出真一朗）

北海道新聞　30年1月13日（朝刊）

# 小樽の夜
# キャンドルで誘う
## 商大生、飲食店で企画

小樽商大の科目「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（マジプロ）」で学ぶ学生が13日午後6～9時、小樽市内の飲食店にグラスキャンドルを置き、ロマンチックな夜を演出する取り組みを行う。観光客の少ない夜の時間帯に小樽に滞在してもらうことが狙い。店内に流す音楽はオルゴール音で視覚、聴覚、味覚を刺激する小樽らしい雰囲気づくりを行う。

（西出真一朗）

**きょう午後6～9時**

マジプロで「夜の小樽の魅力度向上」をテーマに活動している学生4人が、開催中の観光キャンペーン「小樽ゆき物語」（小樽観光協会主催）で行っているキャンドルバーをヒントに企画した。

運河プラザ（色内2）、サンモール一番街商店街内のおたる屋台村レンガ横丁・ろまん横丁（稲穂1）、シュクラ（稲穂2）が協力した。

## 観光客の滞在増を期待

店内の照明を落とし、オルゴールの音色を聞きながら、グラスの中にろうそくの入ったグラスキャンドルの明かりの中で食事を楽しんでもらう趣向だ。運河プラザとサンモール商店街にも100～200個のろうそくを飾り、通行人の集客にもつなげる。

また、客が会員制交流サイト（SNS）のフェイスブックやツイッター、写真共有アプリ「インスタグラム」などから、「#オタルヨルキャンドル」のハッシュタグ（キーワードで検索できる目印）を付けて取り組みの様子を投稿すれば、店で飲み物のプレゼントや商品の割引などの特典がある。

リーダーで、1年の山田陸さん(20)は「新たな街の魅力になれば」と話している。

小樽ジャーナル　30年1月14日

小樽商科大学(緑3)の学生が、小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト「本気プロ2017夏」を履修する6つのプロジェクトのひとつ、夜の小樽の魅力向上チームは、1月13日(土)18:00から21:00まで、ロマンチックな夜の小樽をキャンドルで演出する「オタルヨルキャンドル」を、小樽市観光物産プラザ(色内2)前の広場やキャンドルバー、おたる屋台村レンガ横丁・ろまん横丁、SHUKURで実施し、幻想的な光景を創り出した。

同大1年でリーダーの山田陸さん・坂本涼太さん・小西泰成さん・浅井悠花さんの4名は、観光客で賑わう昼間とは対照的に、夜になると人通りが少なくなることに注目。夜の滞在時間を長くし、小樽の更なる活性化を図る「夜の小樽」の魅力を向上しようと企画した。

小樽らしさを考え、BGMをオルゴール曲に変え、グラスキャンドルを灯し、酒を楽しめるロマンチックな雰囲気を創出。市内飲食店と連携して今回の企画が実現した。

同メンバーは、あいにくの雪が降る中、同プラザ前で16:00からグラスキャンドルの設置を開始。雪から守るために、雪を盛ったり掘ったり工夫しながら、200個を設置した。

同プラザ内では、小樽観光協会が実施する「小樽ゆき物語」のキャンドルバーの開催に合わせ、50個のグラスキャンドルとキャンドルタワーで幻想的な雰囲気を演出。

開店の19:00から通常の照明を落とし、キャンドルの灯が優しく揺れオルゴールのBGMが流れる中、家族やカップルが来場して静かなひと時を過ごしていた。

一方、おたる屋台村レンガ横丁・ろまん横丁前では、豚汁が振舞われ、通行人らが冷えた体を温めていた。

同チームは、昨年10月8日にも、旧手宮線や市立小樽文学館広場でのライトアップを実施し、今回は2回目となる。

リーダーの山田君は、「反省点もあるが、見に来てくれた人もいて良かった。今後、グラスキャンドルを使ったイベントが認知されれば」と話した。

本気プロ2017夏の最終成果発表会は、1月20日(土)13:00から17:00まで、小樽市観光物産プラザ(色内2)3番庫ギャラリーで開かれる。入場無料。

北海道新聞　30年1月13日（朝刊）

## 小樽市人口 道内8位に転落

# 減少歯止めへ共同研究

小樽市の昨年12月末の人口が、江別市に抜かれて道内8位に転落した。両市の住民基本台帳によると、小樽は前年同月末比1828人減の11万8923人となり、同183人減の11万8999人の江別市を76人下回った。人口対策を担当する小樽市企画政策室は「減少傾向に歯止めをかけたい」と話している。

小樽市は近年、毎年2千人前後の減少が続いている。背景にあるのは転出が転入を上回る社会減と少子高齢化。社会減は1959年に始まり、高校や大学卒業を機に職を求め市外に転出する状況は半世紀以上も続いている。少子高齢化も深刻で、市は子育て環境の整備などに取り組む。

市は人口減少の要因と対策を探るため、小樽商大との共同研究を本格化させている。統計学や情報工学などを専門とする小樽商大の教授らが結果を分析し、3月末までに課題や施策について報告書を作成する予定。市企画政策室は「行政だけの視点では見えなかった部分が見えてくるのではないか」と期待する。

（渡辺佐保子）